

2022年3月号  
第41号

スマイルサポートーズ会報誌  
ウィズスマイル

# with smile

もうすぐ春ですね 号

「スマイルアスリート」  
スピードスケート  
及川佑さん

スマサポ初！  
オンライン研修会の  
お礼と報告





オリンピック・パラリンピック出場者からのメッセージ

# スマイルアスリー卜

おいがわ ゆうや

スピードスケート 及川 佑さん

© フォート・キシモト

## 自己紹介と最近の活動について

十勝の池田町出身で3歳の時に初めてスケート靴を履き、小学1年生から競技を始めました。池田高校、山梨学院大学と進学し、株式会社アレフ（びっくりドンキー）に就職。スケート選手として活動した後、現在は大和ハウス工業株式会社の社員でスケート選手として活動させてもらっています。

今年で41歳になりますが、この年齢で、そしてこのコロナ禍の中でもありがたいことにスケート選手として専念させていただいている。

## オリンピックのエピソード

オリンピックは2006年のトリノ五輪、2010年のバンクーバー五輪、2014年のソチ五輪の500Mに出場しました。最高位は2006年に出場したトリノ五輪での4位です。

初めて出場したオリンピックはスタートラインに立つ瞬間は緊張で押しつぶされそうになりましたが、両親がスタンドにいることを思い出し、「2人はもっと緊張しているんだろうなあ、自分の緊張なんて2人に比べたら大したことないな」と思うと、気持ちが楽になりスッと緊張が解けて一気に集中していったことを覚えています。

## 過去の失敗談

初めてのトリノ五輪では4位とメダルに届かず、2010年に出場したバンクーバー五輪ではメダルを目指して順調に臨めました。身体も精神も良い状態で迎えたのですが、トラブルがあり途中で競技が中断てしまいました。

いつ再開するかわからない状況で悩んだ末に、自分の集中力の持続を考慮して一旦集中を切る決断をしました。その後レースの再開が決まり、ウォームアップをし直しましたが、一度切ってしまった気持ちはなかなか戻りません。あっという間にレースが始まり、気持ちを整理できぬままレースを迎える、そして終えてしまったことが今でも後悔の気持ちでいっぱいです。

## ボランティアへの思い

ボランティアの方々とはあまりお話をしたことはないのですが、いつも会場を見守って、そしてレースの成功を支えてもらっていると日本でも海外でも感じていますし、大変感謝しています。ソチ五輪の時には、いつも自分自身の決まり事としてリンクにお辞儀をしてから滑り始めるのですが、現地のボランティアの方に「お辞儀の姿勢がとても美しい」と言ってもらえたことがあります。お互いの言葉は違えど、日本の文化を美しいと感じてもらったようで、とても嬉しい気持ちになりました。

アスリートからの挑戦状

スピードスケートのブレード（刃）は自分自身で研磨する。○か×か？

# オンライン研修会

Thank  
you!



2/28（月）スマサポ研修会が開催されました。事務局としては初めてのオンライン研修会ということで緊張や不慣れな点もありましたが、当日は約40名の方に視聴していただき無事に終了することができました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました！



第1部「小学校スキー学習支援ボランティア報告会」では、支援を希望する小学校の状況やボランティア活動の様子を始め、児童からのメッセージを動画でお伝えしました。続く第2部では札幌2030オリパラ招致活動の目的や計画などについて詳しくお話しさせていただきました。

そして第3部「オリンピアン・トーク」には、サラエボ五輪日本代表（スピードスケート）の鈴木靖さんが登壇。東京2020のエピソードを交え、スポーツボランティアの大切さを伝えてくれました。

鈴木さんへの質疑応答タイムでは、オリンピックと他の世界大会との違い、アスリートがボランティアに望むことなどについて楽しく語っていただきました。また、研修会終盤ではスマサポからの熱いメッセージをいただき、皆さんのモチベーションの高さを改めて実感しました！



↑ボランティアの語源「volo」とは？  
鈴木靖さんが解説中です。

## 参考したスマサポからの声（抜粋）

- 鈴木氏が私達ボランティアのやる気を鼓舞して下さって良かった。
- 参加したボランティアの意義や子供たちのメッセージが受け取れて、とても有意義だった。
- 札幌2030招致について知識を得られ、良い時間となった。
- 研修会や活動等が暫く無かったので、楽しく参加できた。
- 事前に使う資料を見られるようにしてあると、予習も出来るし質問も考えられると思う。
- グループディスカッションができるといいな。
- 参加者のビデオをオンにして、お互いの顔が見られた方が良い。



年1月下旬から始まった「小学校スキー学習支援ボランティア」が先月末に終了しました。

本事業に応募、ボランティアに従事していただいた皆さん、本当に疲れ様でした。

ご回答いただいた事後アンケートは現在集計中ですが、その感想の一部を紹介させていただきます。

児童に対する身体接触の注意点を教わっていたが、実際の現場ではうまく手順を踏むことができず難しかった。

とても有意義だったため、出来れば来年は同じ学校（1人1校）で5～8日くらいボランティアをしたい。

自分の娘がお世話になった地域の小学校のお役に立てた事が嬉しく、今後も続けたい。

小学生1、2年の低学年は靴をなかなか履けなかったり、坂を登れない子、転んでばかりの子が結構いたりして最初は大変だった。2日目、3日目になると皆少しずつ上達していくのがわかり、支援活動にやりがいを感じた。

地域密着型の支援活動は社会発展のためには重要なことだと思う。高齢者が小学生と接するというのは、我が孫と同様の感覚で楽しい時間でもあった。学習本番に入る前の事前準備として坂や通路の雪の踏み固め、段差の解消など自分なりに率先して行いイメージ通りに進行出来て満足感あり。先生方の「来年も来て下さい」のお言葉は嬉しかった（感謝）。

去年と違う学校に行ったため、新しい学校ではやり方の違いを知ることが出来た。また、今回は保護者の方も数名いたことで色々な人と交流することも出来た。

コロナ禍のため、積極的なお手伝いを控えざるを得なかった。マスク同士でコミュニケーションが取りづらかった（笑顔が見えないなど）。

日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN) からご案内です。

JSVNは、コロナ禍で人との距離を保たなければいけない今、スポーツボランティアは人と人が繋がる場所でありたいという思いから、ボランティアへの感謝の想いを伝える映像を制作しました。アスリートから受け取った『ありがとう』を、皆さんの家族や友人、まだスポーツボランティアという活動を知らない方にも繋いでいただけると幸いです。

▼詳細・映像は以下のURL、または右記QRコードよりご覧いただけます。

<https://spovolv.net/pages/detail?pid=127>



### 今後の活動予定

2022年8月28日(日)、3年ぶりに北海道マラソンの開催が決定！  
ボランティア募集は5月以降の予定。募集があり次第、別途ご案内いたします。

アスリートからの挑戦状の答え：○。専用の道具を使って練習前やレース前など自分自身で研磨することが一般的です。